

島九条の会通信

第61回例会の報告（12月4日です）

「核兵器も戦争もない世界を目指して！」

12月4日島公民館で開いた61回目の例会は、初冬の寒い日でしたが用意した席いっぱいの31名参加、熱気あふれる会となりました。

全体は2部構成。まず劇団はぐるまの俳優としても活躍した大塚鏡子さんによるシャンソンの熱唱で幕を開けました。

戦争に奪われた愛と命（大塚鏡子さんの歌と話）

有名な『ヨイトマケの唄』と、戦場に動員される兵士を送る恋人の気持ちをうたう『汽車は8時に出る』のわずか2曲でしたが、どちらも心に沁みました。特に「髪を切り 口紅を落として 黒い服を着るわ 心を閉ざして 今は別れの時 二度と戻らぬ人……」とうたう『汽車は8時に出る』について大塚さんは、出征した恋人を待ちながら戦争中に亡くなったお姉さんと、出征した恋人の姿が重なると言います。戦争が終わって辛くも生還した恋人は、結婚を約束したお姉さんの死を知らされて、その場で号泣をしたそうです。



続いて、被団協事務局長木戸季市さんの講演「核兵器も戦争もない世界を目指して」です。以下その講演の要旨です。

被爆の記憶は消えない

最近ロシアのジャーナリストに「被爆の記憶はいつ消えたか？」と質問されたが、こう答えた。

「何を言っているのか、被爆の記憶はますます大きくなる、人類を滅ぼすものだ、核は。」

広島と長崎は、人類に大きな課題を突きつけた。『核で人類を滅ぼすのか？核から人類を守るのか？』だ。

被爆体験

私は9人兄弟の末っ子で、長姉の嫁ぎ先の出水（鹿児島県）に行っていたが被爆前日の8日長崎に帰っていた。9日は母と家に居た。B29の音を聞いて見上げた途端ピカッときて20m飛ばされた、爆心地から2km、顔の左半分を火傷。母親は半身火傷をしていたはずだが、その姿の記憶はない。2番目の姉は国民学校の教員で爆心地から1.2kmで被爆、倉庫にいたがガラスの破片がたくさん突き刺さった。父親は山の向こう側にいて光を浴びておらず「無事」だったが、24年後目尻や鼻、爪などから出血して亡くなった。

翌10日戸板に乗せられて疎開し、しばらくして雲仙にある父親が働く会社の施設に避難できた。そこは休めるだけでなく、食べ物も薬もあり、これらの有無が生死を分けた。私たちは「恵まれた」被爆者だった。しかし、よく熱を出し小学校に入る頃までは虚弱児だった。

高校生の頃には、結婚をしてはいけないのでは、子供を作ってはいけないのではと思い始めた。しかし高校の先生に「結婚しなくてはいけない」と言われ、さらに「広島と長崎以外では絶対に被爆者だと言ってはいけない、差別を受けるからだ」とも言われた。しかし、広島・長崎では差別はしないが、あえて口には出さない。それはあまりに酷いことを思い出すからだ。

長崎は軍派遣のカメラマンが大勢の被爆した人々の姿を撮ったが、広島では被爆した人々の惨状を撮った写真がほとんどない。初めて遭ったあまりの惨状にカメラが向けられなかったからだ。人間らしく死ぬことを許さないのが核兵器だ。家族に看取られて死んだ人は全体の4%にすぎない。



ウィーンの核兵器禁止条約締約国会議に参加して驚いたのは、多くの人が日本は核兵器禁止条約を批准していると思っていることだ。なぜ批准しないのか、と問われて①日本政府は戦前の戦争を反省しない②戦争被害（空襲・原爆・沖縄戦など）に対して日本政府は戦争犠牲受忍論に立っていると説明した。

禁止条約締約国会議の議長を務めたオーストリアの外交官が、「30年余の外交官生活で初めて被爆者の話を直接聞いた、核兵器禁止条約のために努力する」と語るなど、**世界は核兵器も戦争もない世界を望んでいる**とウィーンで強く感じた。

しかし、ウクライナの戦争を始め何があるのかわからないのも事実だ。「ウクライナを守れ」の声はあるが、これは戦争を長引かせているだけではないか？人間の命を守る、人間を生かすために、自由を守るためにどうすべきか、今起きている事象の意味を考えることが大切だ。

木戸さんはこの他にも、自ら先頭に立った聖徳学園での解雇撤回闘争や部落差別問題に対する取り組み、被団協の運動（木戸さんは現被団協事務局長）などを縦横無尽に語っていただきましたが、紙面の関係でお伝えできません、お詫びします。次に参加されたみなさんの感想を紹介します（お名前は割愛し、原文をそのまま乗せました）。

- ・ 大変貴重な話を聞き、大変感動いたしました。
- ・ シャンソンが良かった。戦争に行つてウエ死にした父のあとの母を思い出した。木戸さんの講演もよかった。これまでの講演でもっとも心にのこった。
- ・ もういちど聞きたい。
- ・ ありがとうございます。平和を願う市民運動に参加しています。最近の日本の情勢に心がつぶれそうです。でも今日のシャンソン、木戸先生のお話でモチベーションが上がりました。絶対に日本を戦争させない為にできる限り、街頭アピールで声を上げていきます。
- ・ 大塚鏡子さんのシャンソンすてきでした。私もヨイトマケの唄の時代を、戦後を闊って生きてきましたのでよくわかります。父が太平洋戦争で戦死し残された私達、母を中心に食べることに苦労しました。日本政府が核廃絶に署名しないこと被爆者の国として米国の云いなりにならず平和のためにリーダーシップを発揮するよう運動ももっと広げなければと思います。そのことを若い人にもっとわかるよう話してほしい。これからも討論し行動することですね。
- ・ 大塚鏡子さんの語りも歌もとてもよかった。涙ぐみながら、思わず「ブラボー」と叫んでしまいました。木戸さんとは数え切れないくらいほどお会いしたりしているのに、お話をしっかり聞くのは初めてでした。ご家族や被爆体験のお話は衝撃的でした。「人類と核は共存できない」「人類が滅びてしまうかどうかの一人ひとりの問題だ」これらの言葉を深くかみしめ、核兵器も原発もない世界を目指して生きていきます。「人間の手でつくりだしたものは、人間の手でなくすことができる」わたしは、そう信じています。
- ・ 大塚さんの歌素晴らしかった。やっぱり役者ですね。木戸先生ケロイドが治って良かったですね。「長崎の郵便配達」赤い背中の人、谷口スミレさん長崎の被爆はヒロシマと同じ様に悲惨だった。被爆者が世界を動かしてきた。尊敬する人々です。岸田はアメリカの顔ばかり見て対話しようとしな。軍拡ばかりで許せない。軍拡は経済的にも国民イジメ。
- ・ 木戸先生の迫力あるお話に引き込まれました。お若い頃から人との交流を大切にされ、その積み重ねが大きな説得力となり、今日の活動を支えておられるのだと感動しました。「被爆者の声を消さらない」その思いを日本は守り続けねばならないと、思いを新たにしました。自分の力のなさを思いつつ。
- ・ 岩田さんに声をかけてもらい参加しました。来て良かったです。シャンソンで開始され、大塚さんの歌に心がふるえました。こんな胸がふるえた状況で木戸先生のお話がきけるのか心配でしたが…。先生の語りに吸い込まれました。もっとききたかったです。今後計画があれば教えてください。PS”被爆者からあなたに“を読んで来ましたので今日お話になかった分は直接ききませんでしたが知識としてありました。また機会があると良いです。”希望です“
- ・ 島九条の会のとりにくみに敬意を表します。身近にこんなにすごい講師を持つ幸。「何度も聞いた」と言った人がいましたが、その都度、状況分析、私たちのやるべきことが明確に話されます。長いお付き合いですが幅広い人間関係、哲学的な思考に感激しました。私が知りたかった原水協の結成活動のご苦労が聞けなかったことは残念でした。大塚さんの「よいとまけ」涙しました。会の表示の美しい字に見とれました。

1月9日名鉄岐阜駅前での宣伝行動に島9も参加しました

毎月9日は「岐阜九条の会」の呼びかけで、県内9条の会統一宣伝行動の日です。島9も単独では若干「苦しい」ので、岐阜九条の会主催の名鉄岐阜駅前の「憲法改悪反対」の宣伝活動に合流しています。写真は今年初めての9日の行動の場面で、右端が島9の会員です。夕方5時から30分間、交代でマイクを握り、岸田政権が進めようとしている大規模軍拡や原発再稼働、ウクライナの戦争、自衛隊の南西諸島展開問題などを市民に訴えました。参加者誰もが「今こそ行動しなければ」という思いを共有していました。



編集者のぼやき ウクライナの戦争報道でよく出てくる防衛研防衛政策研究室の高橋室長が琉球新報に、台湾（中国）有事では要塞化が進む南西諸島が攻撃されるが持久戦に持ち込めば...と語っている★持久戦となれば住民は？沖縄戦の悲劇が頭をよぎる★持久戦で「国が守れても」、国民は？★勇ましい政治家や軍人には、民の命より「お国」第一らしい。